

角野康郎. 1987. 日本産ヒシ属の変異に関する予察的研究. 植物分類地理. 38: 199-210.

Kunii, H. 1983. Diurnal vertical fluctuation in some water variables under the covers of two different aquatic plants, *Elodea nuttallii*, and *Trapa* sp. Mem. Fac. Sci., Shimane Univ., 17: 61-69.

Muenschler, W.C. 1936. Storage and germination of seeds of aquatic plants. Bull. Cornell Univ. Agr. Expt. Sta. No. 652, 17pp.

Tsuchiya, T. 1986. Growth characteristics of floating leaved plants. Doctoral thesis of Tokyo Metropolitan Univ.

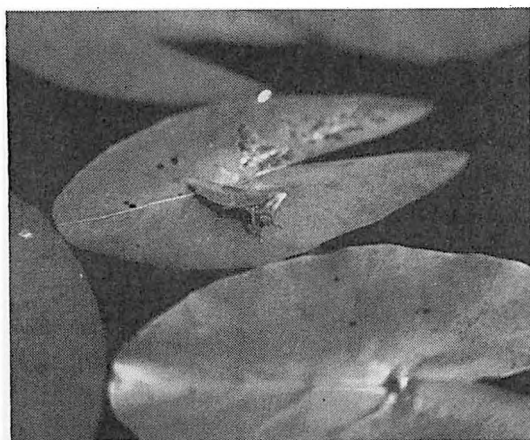
(1989.9.11)

オニバスの葉を食べる オンブバッタ 齊藤吉永

水草を食害する「きらわれもの」としてはまず第一に俗称エビガニと呼ばれているザリガニ科のアメリカザリガニ *Procambarus clarkii* Girard があげられるが、筆者の庭の水槽に植えてあるカヤツリグサ科のクログワイ *Eleocharis tuberosa* Schult. var. *kuroguwai* Velox Fabricius はバッタ科のハネナガイナゴ *Oxya velox* Fabricius に毎年食い荒らされて、いつも無残な姿をさらけ、千葉県野田市岩名産、シロバナミズアオイ *Monochoria korsakowii* Regel et Maack form. *albiflora* Honda (ミズアオイ科) = 野田市の産地は埋立てられて消滅 = や知人から贈られたヤエオモダカ *Sagittaria trifolia* L. cv. *plena* (オモダカ科) も毎年オンブバッタ *Atractomorpha bedeli* Bolivar (オンブバッタ科) の食害を受けて辛うじて生きのびているというなさけない有様で、相当見廻りの回数をふやして注意はしているものの大抵は僅かの「すき」に被害を受けるには閉口する。

今年の気候は不順だったせいか、やはり水槽で10数年続けて栽培中のオニバス *Euryale ferox* Salisb. (スイレン科) の生育が思わしくなく、新聞では開花のニュースまでであるのに筆者のものはまだ本葉が見え始めた程度である。

気をつけて見ると浮葉に食害の跡があって犯人？さがしにやっきになったが、この程やっと判明した(写真)。シロバナミズアオイやヤエオモダカを食害するオンブバッ



〔写真〕オニバスの葉を食べるオンブバッタ。

タの仕業であった。

オンブバッタは小型の昆虫で普通雄が雌の上におぶさっていることからこの名が付いたというのが雄で20mm内外、雌が35mm内外の体長であって中国、朝鮮半島、日本全国に生息しているありふれた種であって子供にまで知れわたっているのに食草については余り詳しく判っていないようである。

シロバナミズアオイやヤエオモダカ程の被害はないもののオニバスの葉を食害することを知ったので報告しておきたい。

(1989.8.16.)